

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372301046		
法人名	社会福祉法人 伸生紀		
事業所名	グループホームこもれび		
所在地	熊本県下益城郡美里町佐俣388		
自己評価作成日	平成30年11月06日	評価結果市町村受理日	平成31年2月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41—5		
訪問調査日	平成30年12月4日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員一人一人が利用者個人の状況をきちんと理解して、声掛けやケア方法などの身体介護の在り方を考え、利用者が楽しんでグループホームでの生活が出来るように職員で意見を言い合い利用者にとって一番良い方法を考え実行している。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、入居者一人ひとりの性格や入居前の生活環境等を把握し、これまでの暮らしを維持できるように、本人本位のケアを心掛けている。居室に閉じこもらない・一人にさせない・寂しい思いをさせないよう、リビング活動を充実させ、本人の意向を尊重した上で職員も一緒に楽しみながら笑顔を引き出し、可能な限り利用者と一緒に過ごす時間を大切にしている。入居者それぞれが、ここが自分の住まいだとして、職員に見守られながら、毎日を穏やかに過ごしている様子が伺えた。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼時・申し送り時に理念唱和を行っているので職員一人一人が理念の共有が出来実践につなげている。	法人として「誠実と笑顔を大切に」・「安全と安心を大切に」・「地域社会の信頼を大切に」の三つの理念があり、職員は日々の実践の中で理念の共有を図っている。「地域社会の信頼」については、地域の方々と交流する機会を上げ、地域に向けてホームや認知症について理解を得るための積極的な働きかけが期待される。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ブロック会議等の会議に出席し、他グループホームとの交流は出来ている。 今年は開催できなかったが毎年こもれび全体行事として、「メルカドこもれび」を開催している。	「メルカドこもれび」というバザーや屋台が出店される法人行事が年一回開催されており、多くの地域住民の参加があり、利用者との交流が行われている。	今後、どんどや等の地域行事に参加する予定であり、利用者と共に地域との交流が活発になるよう期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	回数は少ないがこもれびにて認知症サポーターの研修を行ったりして、地域の方の参加も多く見られている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実際に利用者の様子や写真で行事や日常生活を見て頂き、様々な意見を業務に活かせるよう努力している。	運営推進会議は、地域から区長と民生委員の各1名、行政と社協が各1名で構成されており、2か月に一度開催。ホームの活動報告の後、質疑応答が行われている。家族にも会議の案内は出されているが、参加は少ないのが現状である。	運営推進会議の意味について理解を深め、入居者・家族や地域の方の多様な意見・提案を聞くことができるよう、委員の開拓も期待される。また、時にはホーム行事や避難訓練などと同日に開催するなど、多くの参加を得るための工夫も期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議へ参加していただくことで協力関係の構築に取り組んでいる。	行政からは施設運営に関する情報や研修案内等を得ており、ホームからは入居者状況・事故報告等を、役場に直接出向いたり電話で伝えて協力関係を築くよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内での研修で学ぶ機会を設けており、職員全員に身体拘束がなぜいけないか伝える事で身体拘束は行っていない。	法人の年間研修計画の中に、「身体拘束」についての研修も組み込まれている。同じ内容で2日間に亘って行われており、職員の勤務時間を調整して、全職員が学ぶ事で身体拘束の弊害等の理解に繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内での研修に加え施設外での研修に参加し学んでいる、もし何かあれば職員全員で共有・カンファレンスを行い再発防止につなげている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に後見制度は活用しているが、あまり理解できていない職員もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申し込み・契約の際管理者・ケアマネジャーが内容を説明させていただいている。契約時には疑問点や要望等を尋ね、同意いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時・運営推進会議・担当者会議の時などで意見や要望をお聞きし、ケアプランや申し送り等で反映させている。	面会時、日頃の暮らしぶりを家族に伝えて意見や要望を聞く機会としている。利用者の「帰りたい」思いは、外泊は無理でも自宅までの外出ができるよう家族に相談し、実現した事例もある。面会が少ない家族に対しては、ケアプラン作成にあたり、半年に一度は来所を促している。	2か月に一度発行している「こもれび便り」を家族に送付するなど、少しでも本人の暮らしぶりを家族に伝える事が望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングや日頃の業務で意見交換を行い、職員全員の意見を出し合い運営に反映させている。	職員は担当制で利用者の日々の状況を把握し、月一回のミーティングで問題点や改善点を話し合い、情報の共有を図っている。人手不足で外出が出来ない時は職員のアイデアで室内ミニ運動会をしたり、しゃべるぬいぐるみを持参し、利用者と共に楽しむレクレーション等が工夫されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の思いや体調等現在の状態を把握する様に努めているが、現在人員不足により夜勤回数の増加・残業時間の増加になっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の経験や力量に合わせた外部研修への派遣を行い現場で活かしてもらい他職員との共有もしてもらっている。又、職場内研修を2ヶ月1回行い知識の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宇城地区のブロック会の勉強会は開催されているが、現在職員不足により参加できる人数が限られている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前にその時点で入居されている場所へ出向き情報収集を行っている。本人様より聞き取りが可能な場合はどんな生活をしたかなど要望をお聞きしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に何を一番必要とされているのかをお聞きし、いつでも何でも話していただけるような関係作りが出来るよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時にご家族・本人様と面談しどんな要望があるのかなどお聞きしている。出来るだけ要望に沿った支援が出来るよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御利用者一人一人のレベルを理解し、出来る事に目を向け役割を与え生活を一緒に楽しんでいる。例えば洗濯物畳みや調理、荷物運びなどその人に合った作業の提供を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にも色んなことをお願いしたりと一緒に御利用者を支えて頂いている。例えば、帰宅願望の強い御利用者に対しては一時外出を依頼したり、アルコールを好まれる御利用者へは好まれていた焼酎を持って来て頂いたりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の方や知人の方の面会時には居室にてゆっくり過ごしていただけるよう配慮している。また、以前デイサービスを利用されていた方はデイサービスへお連れしたり馴染みの職員に来て頂いたりしている。	ホームから自宅が近い利用者が、自宅周辺の散歩道で記憶が呼び戻され、懐かしさの声が出て、その時しか見られない表情が得られている。理美容に関しては、継続して同じ美容室から出張美容で来てもらうことで、新しい馴染みの関係づくりが行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は皆さん一緒にソファにて過ごしていただいている。気の合う方同士を隣にしたりと配席も気を付けている。おやつを一皿に入れて提供する際はお互いにとってあげたり、袋から出してあげたりするという関係も見られている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も気軽に足を運んでもらえるよう、退去時には何かありましたらいつでもおいで下さいと声掛けを行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの聞き取りが可能な方はケアプランの要望の欄に記入しサービスに反映させている。困難な場合でもご家族の要望などをお聞きし努力している。	本人の意向を確かめながら、洗濯物たたみや食材切りをやってもらう事でこれまでの暮らしの維持ができるよう努めている。又、誕生日に寿司が食べたいとの思いに応じて職員と一対一で外食する等、日常的な些細な思いにも添えるような対応を心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からの聞き取りが出来る場合は日々の会話の中で昔の話しなどをして生活歴などを把握している。またご家族からの情報もお聞き好まれてされていた事、習慣なども把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中の過ごし方は本人様やご家族からの情報をもとにしている。一人一人出来る事は異なる為その方に合ったサービスの提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の介助の中で職員間で意見を出し合い、本人様にとって快適な暮らしが出来るよう支援している。また、状態の変化があった場合はケアプランへの反映を行い対応している。	入居前の生活に近い環境での生活を大切にしている。担当職員は、3か月に1回のモニタリング・評価表を作成し、ケアマネは日常的に職員と情報を共有しながら、6か月に1回プランの見直しをしている。担当者会議には、家族・担当職員・ケアマネが出席し、必要に応じて看護師や理学療法士の助言を得てケアプランに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録はほのぼの上にてケースに記録している。重要なことなどは申し送りノートを活用し職員間での情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在職員不足により色々な活動が出来ておらず御利用者には満足のいくサービスが出来ていない状況。しかし、少しでも楽しく過ごしていただけるよう現職員で出来る取り組み(ミニ運動会・レクレーションでの手品披露)等を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在、傾聴ボランティアなどの活用を増やして行こうとはしている。職員人数に余裕がある際は、近隣を散歩したり、近所へ買い物と一緒に出かけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医で受診や往診を受けていられる方が多い。何かあれば病院に連絡し病院との連携を行っている。	入居前のかかりつけ医を継続しており、体調の変化があれば家族に連絡して職員が付き添い受診している。月1回の往診と週1回の訪問歯科で口腔内チェックも行われ、利用者の健康管理が保持されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護クルトさんが週1月曜日に来られ身体状態を診られる。又、何かあれば他部署の看護と連絡することが出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医からの紹介状を頂いたり、施設からの情報提供を行う。週に1度は面会や地域連携室とのやり取りを出来るだけ多くする。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	以前、看取りを行っていたが、現在の職員環境では難しい部分がある。週末を迎えられたご家族と話し合い病院に転院される事が多い。	ホームで看取りをするという明確な方針は定められていないが、終末期が近づいたら医療的な面も考慮し、家族と話し合いを重ねながら悔いが残らないような対応に努めている。将来的には、看取りに関する職員教育も含めて体制を整えば、ホームでの看取りも視野に入れている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体研修を通じてAEDの使い方などは学んでおり、実践につなげている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、各部署協力のもと日中又は夜間の想定での火災訓練を行っている。	消防署立ち合いのもと、年2回法人全体の避難訓練が行われているが、利用者は参加していない。又、地域との連携や協力も得られていないのが現状である。備蓄については、法人で完備されている。	運営推進会議委員に協力を求め、利用者も参加しての訓練を行う事で、利用者及び職員の意識を高め、新たな気づき等も生じられると思われる。また、委員から訓練への意見を聞くことなども期待される。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的には敬語での声掛けを行っている。職員間で気付きがあれば声かけしあってプライバシーを損ねない様心掛けている。	利用者から料理の味つけを教えてもらったり洗濯物たたみには感謝やねぎらいの声かけをするなど、一人ひとりの個性を尊重する対応を心掛けている。又、入浴・排泄時には馴れ合いにならないよう、羞恥心に配慮した対応が見られた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来る方はさらに出来るように声掛けを行っている。なかなか思いうや希望を表出できない方は様子観察や声掛けで関係性作りをし自己決定出来るよう支援する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や食事の時間等、ご本人の意思を尊重し画一的にならないように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時には整髪し、衣類の配色の選択を利用者と一緒にするなどの支援をする。洗面台にブラシや化粧水を置く等自らこまめに出来るよう配置する。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜切り等、利用者と職員で一緒に行い、煮物を作る際は味を診てもら。出来上がった料理をさらに取り分けてもらう等行っている。	特養の管理栄養士によるメニューを活用し、朝食と夕食は利用者に手伝ってもらいながら、ホームで調理している。昼食は、特養から届けられたものを職員が個々に配膳して提供している。餅つき・おせち・誕生日のケーキ・クリスマス等の行事食は、利用者・職員の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本管理栄養士作成のメニューを提供している。水分量は計量カップではかり、なかなか水分を摂って頂けない時は声掛けや個人の好みに合ったものを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科より口腔ケアをして頂いている方もいらっしゃるが、毎食後に歯磨きを一人一人の状態に応じた口腔ケアをし、うがいが難しい方は口腔ケア用スポンジ等使用し、食物残渣が残らないようにしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中、定時のトイレ誘導や訴えがあればその都度誘導している。夜間はポータブル使用されている。	自立に向けて、リハビリパンツとおむつをなるべく使わないようにしようという目標を設定している。昼夜ともにパットと布おむつを使用し、定期的な誘導でトイレでの排泄を促し、失敗を少なくする努力が見られた。夜間は、ポータブルトイレ使用の人もあるが、職員がセンサーで察知してトイレに同行している利用者もあり、一人ひとりに応じた自立支援に努めている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	スキルアップ研修などで排便についての学びを受けている。なるべく薬に頼らないように排便なしの日が続く場合は食物繊維やプルーンの提供や水分補給時に乳酸菌飲料を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員不足により以前は1日3名の入浴が出来ていたが、職員数によ今は1~2名しかできていない。日中職員がいるときに3~5名入浴していただき必ず週2回入浴する様になっている。	お風呂は、近くの温泉源から引いたお湯が使われている。時間帯を考慮し、週2回は必ず入浴ができるようにしている。入浴の際、皮膚のかさつきや座っている時間が長い人の下半身の皮膚の状態の観察を怠らず、塗り薬等で早めの対応を行っている。又、男性入居者は職員が入浴時に髭剃りをしており、清潔感も保たれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後、臥床の訴えがある方は臥床対応を行い、起きられている方はリビングにてゆっくりされる。定期的なシーツ交換と布団の天日干しを行い、清潔を保っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各ご利用者の薬内容を把握し、定期薬の他に処方された際は口頭・申し送りノートを活用し与薬忘れがないよう努めている。与薬する時は職員同士で名前や日付を確認してから与薬し、誤薬のないよう気を付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し・畳み等利用者と一緒に生活リハビリを兼ねて手伝って頂いている。レクリエーションで一人一人が楽しめる事を職員で考え提供している。ノンアルコールビールや焼酎等ご家族やドクターに許可を頂き提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員不足により現在の状況ではドライブ等遠出は難しい面もあるが近くの神社や周辺の散歩はなるべく行くようにしている。外出ではないが同施設ないにデイサービスがあるので友人などが来られた際は面会に行き会話を楽しまれている。	多くの職員が、戸外に出かける機会を増やしたいと考えているが、職員不足で遠出は出来ていないのが現状である。しかし、個々の利用者の希望に沿って近隣の散歩に出かける事で、外気に触れ、気分転換を図っている。	職員不足は解消されつつあるということであり、年間外出計画を立て、花見や紅葉狩り等、季節を感じる外出なども期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在金銭を自己管理されるご利用者はおられず、必要がある時に預り金より出している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいとの訴えがある時には対応している。手紙のやり取りはないが誕生日などにご家族から手紙を頂いたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには毎月利用者と一緒に壁面を作成したり、季節感を味わっていただけるよう工夫している。また共同生活の為ご利用者同士のトラブルが無いよう席の配置にも気を付けている。	玄関を入ると、木造りの広い空間が広がっており、ゆとりが感じられる。天井は、木の梁が組み合わさって開放的である。リビングには絵本や雑誌が置かれた本立てが置かれている。大きな壁掛け時計やカレンダーが随所に掲げてあり、時間や日付がわかるよう配慮されている。居室周りには、手すりなどが設置され、安全面にも配慮が伺えた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合うご利用者同士でテーブルで洗濯物をたたんだり談笑されたりと過ごされている。一人になると不安と寂しさを感じられる方には一人の空間ができないようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人にとって居心地のいい環境になるようご家族に馴染みのあるものを持ってきて頂いたりしている。また、行事の際などに送ったスタッフからのメッセージカード等を貼ったりして出来るだけ殺風景にならないように心がけている。	各居室に大きな鏡付き洗面台があり、食後、職員に促されて各自、自室で歯磨きをする姿が見られた。整理タンス・衣装掛け・三段ボックス・鏡台等、本人が入居前に使っていた物が置かれ、落ちついた居室となっている。自分の部屋だと認識できるよう、家族が持参したおしゃれな暖簾が掛けられた居室もみられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	可能な限りの残存機能を活かしたケアを行っている。意思疎通が困難でも音楽を好まれ笑顔が見られれば、そのような環境を提供している。安全面においては足元に滑り止めマットを敷くことで自力での立位が可能になるような支援を行っている。		